

《今月のトピックス》



熱中症予防のために

室内では・・・

- 扇風機やエアコンで温度を調節、遮光カーテン、すだれ、打ち水を利用、室温をこまめに確認

外出時には・・・

- 日傘や帽子の着用、日陰の利用、こまめな休憩、天気の日、日中の外出をできるだけ控える

からだの蓄熱を避けるために・・・

- 通気性のよい、吸湿性・速乾性のある衣服を着用する、保冷剤、氷、冷たいタオルなどで、からだを冷やす

こまめに水分を補給・・・

- 室内でも、外出時でも、のどの渇きを感じなくても、こまめに水分・塩分、経口補水液（水に食塩とブドウ糖を溶かしたもの）などを補給する

【熱中症】は、高温多湿な環境に長くいることで、徐々に体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温調節機能がうまく働くなり、体内に熱がこもった状態を指します。屋外だけでなく室内で何もしないときでも発症し、救急搬送されたり、場合によっては死亡することもあります。熱中症について正しい知識を身につけ、体調の変化に気をつけるとともに、周囲にも気を配り、熱中症による健康被害を防ぎましょう。

【熱中症の症状】

めまい、立ちくらみ、手足のしびれ、筋肉のこむら返り、気分が悪い、頭痛、吐き気、嘔吐、倦怠感、虚脱感、いつもと様子が違う

○重症になると

返事がおかしい、意識消失、けいれん、からだが熱い

引用：厚生労働省「熱中症関連情報」

《ご意見・ご要望について》

Q：初診受付時、看護師によるトリアージの際に看護師に呼ばれ自分が傍にいましたが、違いますか？

A：この度は、不快な思いをさせてしまい申し訳ありませんでした。今後、このようなことがないよう、指導いたしましたので、ご理解いただきますようお願いいたします。

Q：子供が救急搬送されたため自家用車で来院した際、警備員の誘導が不適切だった

A：この度は、不快な思い、ご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。今後は適切な誘導をできるよう警備員に対して再教育、指導をいたしましたのでご理解いただきますようお願いいたします

Q：水飲み場で痰やつばを吐いたりうがいする人を多数見受けられて不快。張り紙をしてほしい。

A：貴重なご意見ありがとうございます。早速注意喚起を促す掲示をいたしました。また何かありましたらスタッフまでお声掛けください。